

長期予報には、1か月予報・3か月予報・暖候期予報・寒候期予報があります。その内容は、「[平年からの偏り](#)」を表しています。

対象期間が長期になると、扱う現象も総観規模ではなく、超長波などの大きな規模になってきますし、扱う天気図も、私たちがよく目にする天気図ではなく、月平均天気図など少し馴染みの薄いものになってきます。

この、月平均天気図の読み取り……個人的にはちょっと苦手でした。今から思えば、見慣れていないのが原因だったのでしょうか。でも、これからの受験生は、気象予報士試験も回を重ね、月平均天気図と偏差の読み取りの問題も数多くこなすことができるので、見方にさえ慣れれば、出題は特徴的なパターンについての内容ばかりですから心配はいらないと思います。

[東西指数](#)、[ゾーナル](#)、[偏差の＋](#)、[西谷](#)、[東谷](#)など、注目すべき箇所を把握して、大きな流れの場が日本にどのような影響を及ぼすのかを理解しておいてください。[暖冬や冷夏など](#)、[特徴的なパターン](#)も整理して頭に入れておきましょう。

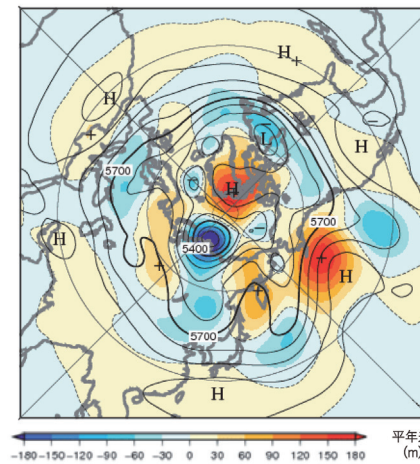
そして、長期予報の予報は、アンサンブルという手法が用いられています。この[アンサンブル予報](#)についても、しくみや信頼度などについて、しっかりと理解しておいてください。ちなみに、1か月予報に用いる数値予報モデルは、2022年現在、18日先まで水平約27km格子間隔、18日～34日先まで約40kmです。

#### 【過去問】[54回] 令和2年度 第1回 専門知識 問15

図はある年の7月上旬の旬平均の500hPa高度と平年差である。このときの天候について述べた次の文 (a)～(c) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①～⑤の中から1つ選べ。

- (a) 北日本では、平年より気温が高かった。  
 (b) 北・東日本では、太平洋側を中心に平年より日照時間が多かった。  
 (c) 沖縄・奄美では、平年より日照時間が多く気温が高かった。

旬平均 500hPa 高度と平年差  
 実線：高度 (m) 陰影：平年差 (m)



- |   | (a) | (b) | (c) |
|---|-----|-----|-----|
| ① | 正   | 正   | 正   |
| ② | 正   | 正   | 誤   |
| ③ | 正   | 誤   | 正   |
| ④ | 誤   | 誤   | 正   |
| ⑤ | 誤   | 誤   | 誤   |

解答 ④

#### 解説

(a) 北日本は負偏差域に入っており、500hPaの高度が平年より低く、気温も低いいため誤り。(b) オホーツク海付近で平年よりも500hPaの高度が高く、優勢なリッジ場となっている。地上ではオホーツク海高気圧が発生していると考えられ、北日本と東日本の太平洋側は曇天・低温となるため誤り。(c) 沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われており、正偏差域でもあるため、日照時間が多く、気温が高い。正しい。したがって、解答は④になります。

また、[2週間気温予報](#)と[早期天候情報](#)についても知っておきましょう。このあたりは、変更点の多いところです。気象庁のホームページには、解説やリーフレットなどが載っているので、見ておきましょう。

#### 用語解説

##### アンサンブル予報

わずかに異なる複数の初期値に基づく数値予報を行い、それぞれの予報結果を平均する手法。一つの初期値による予報に比べて精度の高い予報が期待できる。